

「みんなで、手を携えて、

すべての子どもたちに愛を！」

(1万年堂出版「見逃さないで！

子どもの心のSOS 思春期に

がんばってる子」 明橋大二著より)

「いじめ対応マニュアル」

と「それを支える考え」

(12月号続き)

**四、いじめた子への対応と**

**親への伝え方**

2. いじめの質の違いによる

異なる二つの対応

I 軽い気持ちでやった場合。周囲の  
 雰囲気と一緒にいじめてしまっ  
 た場合。

(いじめた子への対応)

① いじめの事実を認めたら、すで  
 にこの時点で、たいてい反省し  
 ている。

② 相手がいかに傷ついているか、  
 どんなにつらい思いをしたか、  
 自分が同じ立場だったらどう  
 いう気持ちになるか、よくよく  
 考えさせ、同じあやまちを繰り返

返さないよう促す。

基本的には、事実の確認と注  
 意、相手への謝罪が考えられる。

(親への伝え方)

① 事実と本人が反省しているこ  
 とを伝える。

II わざとやっている場合。いじめを  
 繰り返している場合。いじめが悪  
 質な場合。

(いじめた子への対応)

こういう場合、たいてい、い  
 じめた子も、どこか別のところ  
 で、逆に被害に遭っている。

① 「もしかして、君もどこかでつ  
 らい目に遭っているんじゃない  
 いか」と聞いてみる。

② もし、何かつらい被害体験を話  
 し出したら、しっかりとその話  
 を聞く。

③ 「それはつらかっただろう。よく  
 我慢してきたね」と十分に共感  
 し、「君の事情は分かった。それ  
 はそれで何とかしよう」と話す。

④ その上で、「だからと言って、そ  
 のつらい気持ちを他の子にぶ  
 つけるのは間違っているよね」

「事実をみんな語って再スター  
 トを切ろう。一歩踏み出す勇気  
 を持とう」と語り、全ての事実  
 の開示を促す。

⑤ その際、いじめられた子だけ  
 なく、家族や周囲の人たちが抱  
 く苦悩や悔しさ、悲しさなどへ  
 の理解を十分図る。

⑥ これから何をすべきかを考え  
 させ、行動に移すよう促す。

⑦ いじめた子やその親と共に謝  
 罪する。

⑧ 改心し、進学等の希望を叶え、  
 確かな人生を歩んでいる例等  
 を示し、「支援するから一緒に  
 頑張ろう」と励ます。

(親への伝え方)

家庭に何か要因がある場合は、  
 事実をありのままに伝えなけれ  
 ばならないが、頭ごなしに親を  
 責めてはならない。親も、いっ

ぱいいっぱいになっている場  
 合が多い。そのことを理解しよ  
 うとする姿勢が大切である。

① 子どもの長所を十分認めながら、  
 親の苦勞を十分ねぎらう。

② 相手の子どもが、とても傷つい  
 た事実を語り、それについて、  
 きちんと親子で謝罪に行くよ  
 う促す。その際、自分も一緒に  
 謝罪することを話す。

③ そのうえで、「いじめた本人も、  
 いろいろつらいことがあったよ  
 うなので、これからはしっかりと  
 話を聞いてやってほしい。もし  
 て、今まで以上に本人を大切に  
 してやってほしい」と話をする。

**親が話し合いに応じない場合**

関係機関等に相談する。子育  
 て支援課、いじめ防止チームな  
 どに何らかのつながりを持つ  
 ている人がいれば、そこからア  
 プローチをする。

(このシリーズ、3月号に続きます。)